

# TOMEN DEVICES

株式会社トーメンデバイス

2025年10月30日

2026年3月期第2四半期（中間期） 決算説明会資料



I

2026年3月期中間期 決算概況

II

2026年3月期業績見通し

III

中期経営計画進捗

IV

Appendix（会社概要）



売上高 : 2,431億円

前年同期比

+ 17.3%

進捗率

60.8%

(対期初通年予想)



純利益 : 48億円

前年同期比

+ 18.8%

進捗率

99.6%

(対期初通年予想)

■ 売上高：主に以下2つの要因による売上増加

- 中国の補助金政策による需要喚起により、メモリー製品を中心に販売数量が増加。
- 各半導体メーカーがAI関連製品（HBM等の先端品）へ生産をシフト。

汎用メモリーの生産量が減少し供給がタイトになったことにより、汎用メモリーを中心に価格が急騰。

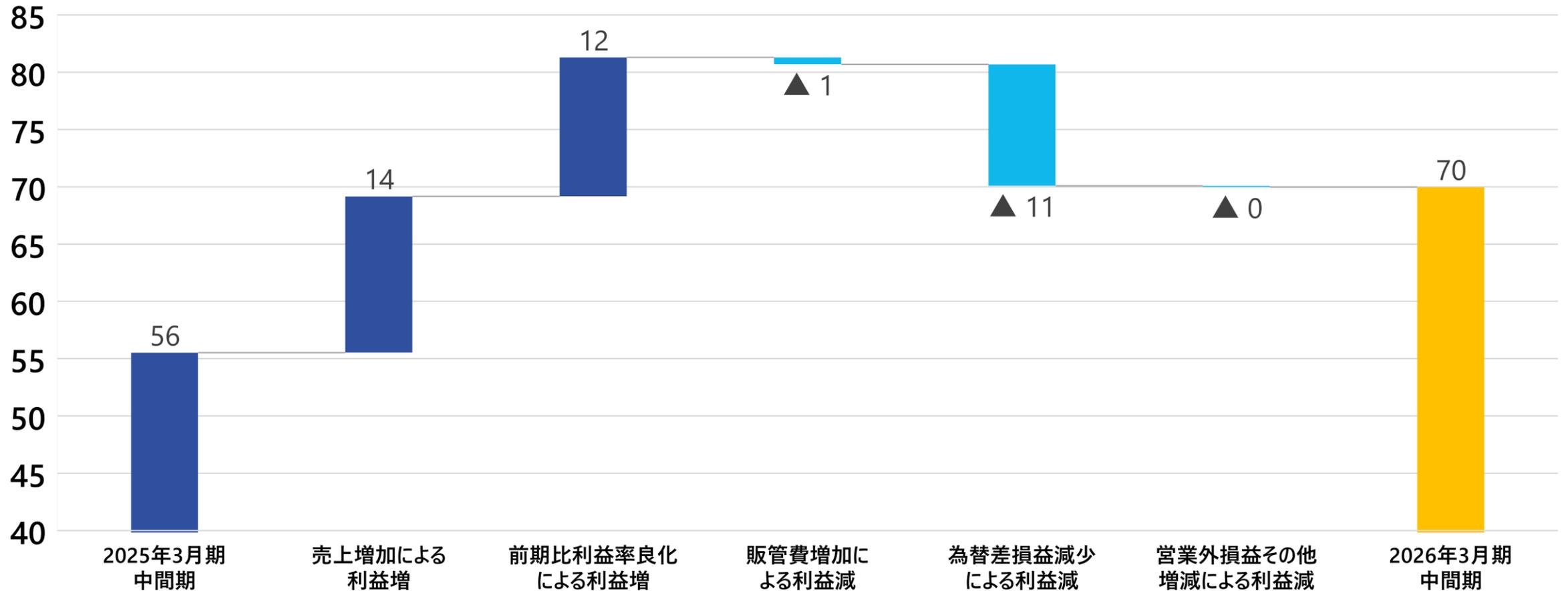
■ 利益：特に第2四半期（7月～9月）にかけてメモリー製品の価格が急騰したことで、収益性が向上。

(億円)	2025年3月期 中間期 実績	2026年3月期 中間期 実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,073	2,431	358	17.3%
営業利益	60	82	22	36.4%
経常利益	56	70	14	26.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益	40	48	76	18.8%
1株当たり純利益 (円)	591.68	702.77	111.09	18.8%

# 経常利益増減要因

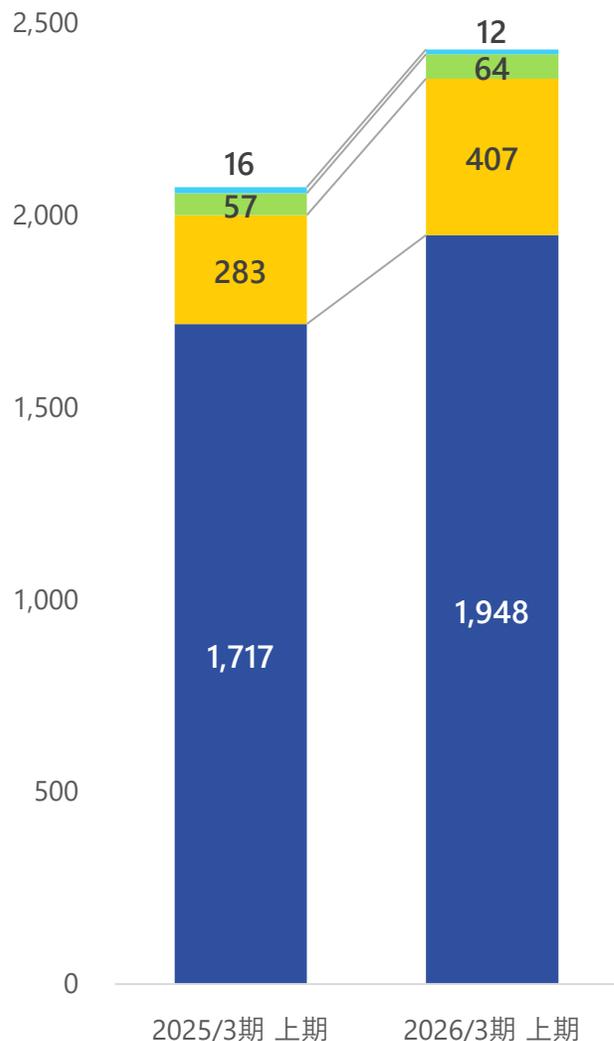
- 主にサーバー・ストレージおよび車載向けメモリー製品の売上増加による利益増
- メモリー製品の価格が高騰する中で、収益性の向上に努めたことによる利益増
- 為替差損益減少による利益減

(単位：億円)



# 2026年3月期中間期 商品別売上高増減要因

(単位：億円)



## メモリー

+13.4%

- サーバー・ストレージ向け売上増加
- 海外での車載およびTV向け売上が好調

## システムLSI

+43.9%

- SiP (システム・イン・パッケージ) ビジネスの売上増加
- 海外スマートフォン向け高画素CIS(CMOSイメージセンサー)の売上が伸長

## ディスプレイ

+12.6%

- 車載、スマートフォン向けに有機ELの売上が増加

## その他

▲27.0%

- バッテリーの売上が増加
- LED製品の売上減少 (販売終息につき)

■ メモリー: DRAM、NAND FLASH、MCP、SSD等

■ システムLSI: SoC、DDI、CIS、PMIC、SiP、Foundry等

■ ディ스플레이: LCD、有機EL

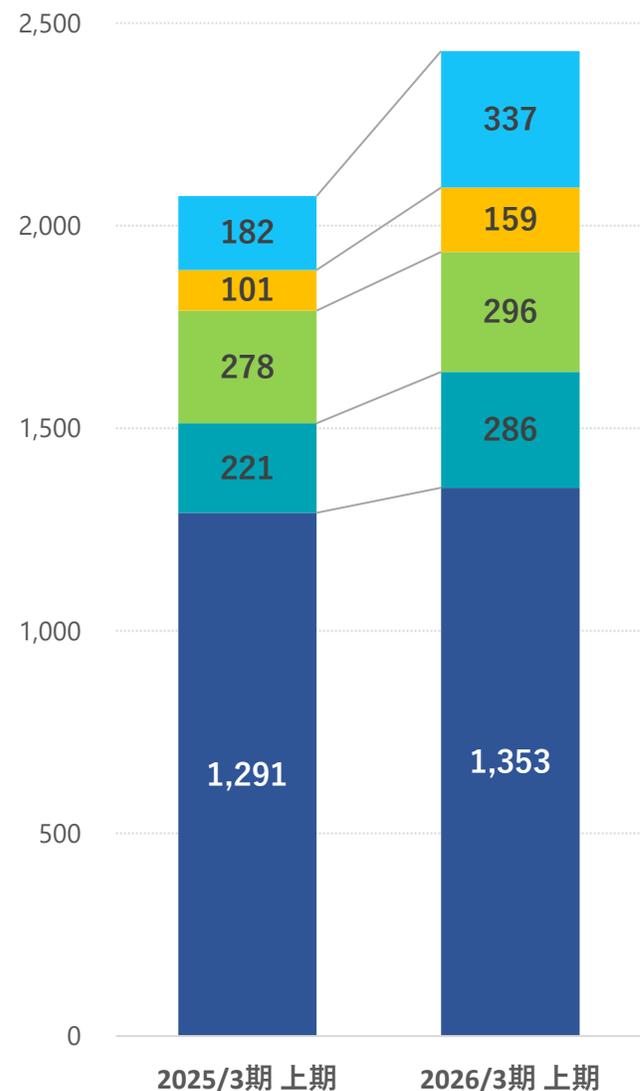
■ その他: LED、MLCC、バッテリー、設備等

## 【各品目に含まれる製品】

メモリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DRAM(Dynamic Random Access Memory：揮発性メモリ)</li> <li>・NAND Flash(NAND型フラッシュ：不揮発性メモリ)</li> <li>・MCP(Multi-Chip Package：複数半導体チップ(DRAMとNAND)を1つのパッケージにまとめた製品)</li> <li>・SSD(ソリッドステートドライブ:ストレージデバイス)</li> </ul>
システムLSI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SoC (システム・オン・チップ)</li> <li>・DDI (ディスプレイドライバーIC)</li> <li>・CIS (CMOSイメージセンサー)</li> <li>・PMIC (パワーマネージメントIC)</li> <li>・SiP (システムインパッケージ)</li> <li>・ファウンドリー (製造委託)</li> </ul>
ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LCD(Liquid Crystal Display：液晶ディスプレイ)</li> <li>・OLED (Organic Light Emitting Diode (有機発光ダイオード：有機EL))</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LED(Light Emitting Diode：発光ダイオード)</li> <li>・MLCC(Multi-Layer Ceramic Capacitor：積層セラミックコンデンサ)</li> <li>・バッテリー、設備等</li> </ul>

# 2026年3月期中間期 用途別売上高増減要因

(単位：億円)



## 情報機器

+4.7%

- サーバー・ストレージ向けメモリー製品の売上が増加
- PC向け売上は若干の減少

## 車載

+29.1%

- 海外では新規の取引開始もあり、メモリー製品の売上が好調
- 国内市場では有機ELの売上が伸長

## 移動体通信

+6.5%

- 海外スマートフォン向けCISの売上が伸長
- 国内スマートフォン向けメモリー製品の売上は減少

## デジタル家電

+56.8%

- 海外市場でTV向けメモリーの売上増加
- 上記以外は、国内・海外ともに横ばいまたは若干の減少

## その他

+84.4%

- 国内市場でSiPビジネスの売上が増加
- スポットビジネスもあり、売上が前年同期比で大きく増加

■ 情報機器：PC、サーバー・ストレージ等

■ 車載

■ 移動体通信：スマートフォン等

■ デジタル家電：TV（周辺機器含む）、デジタルカメラ等

■ その他：MFP、照明等

## 【全体】

### ■ メモリーの物量確保

先端品へと生産がシフトし、汎用DDR製品の供給がタイトになる中、先を見据えた物量確保、取引先とのコミュニケーション・交渉など安定供給に注力。

→ メモリー売上**13.4%UP**（前年同期比）

## 【車載】 2025/4/1 **車載統括部**を営業本部内に新設

車載売上 **286**億円 **29.1% UP**（前年同期比）

### ■ メモリー製品の物量確保

上記同様、車載Bizでも物量確保が最優先の取組みとなった。

### ■ 中国市場における現地顧客へのアプローチ強化

中国市場では電動化・EV化が拡大中

新規顧客・ビジネス獲得を目指し、TMDとATMDでの連携と人員を含めたサポート体制を強化。

→ 海外（主に中国）での車載売上**66.9%UP**（前年同期比）

### ■ メモリー以外の製品の提案強化

車載ビジネスの主力であるメモリー製品に加え、有機ELやMLCC（積層セラミックコンデンサ）等のビジネス拡大。

→ メモリー以外製品の売上**13.0%UP**（前年同期比）



2026年3月期中間期 決算概況



2026年3月期業績見通し



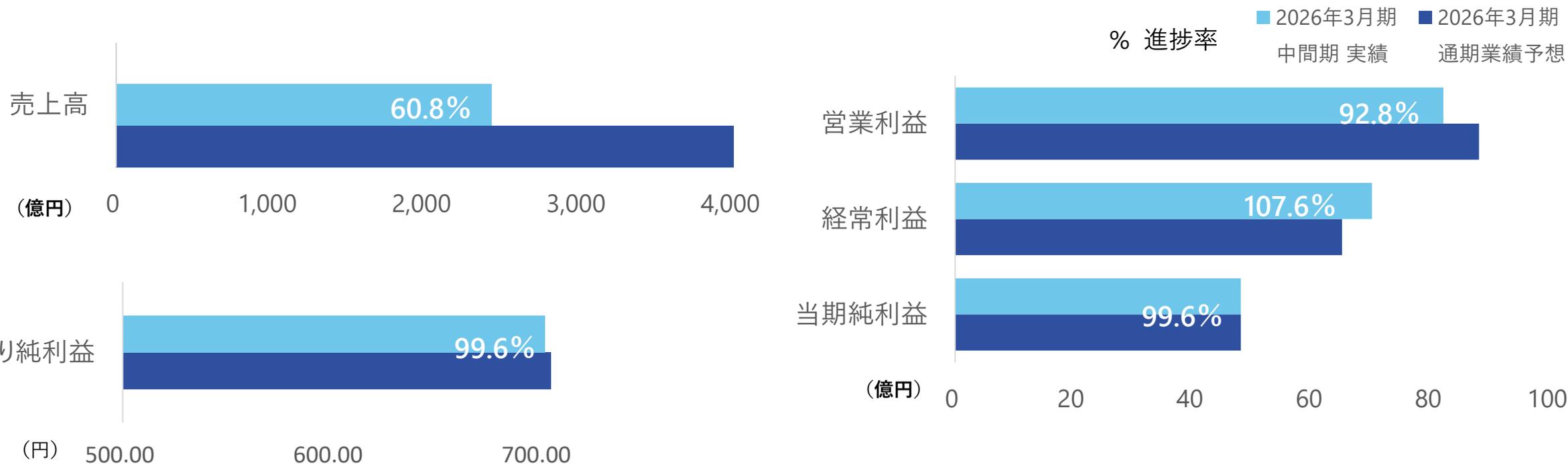
中期経営計画進捗



Appendix（会社概要）

## 期初業績予想に対する進捗 (2025年4月24日公表 期初の通期業績予想)

- アメリカの相互関税引き上げの影響を見込み業績低調を予測するも、影響は限定的であった
- メモリー製品、特に汎用メモリーの価格が供給タイトな状況を受け高騰
- 供給タイトな中でも供給枠を確保
- 利益：特に第2四半期（7月～9月）にかけてメモリー製品の価格が急騰したことで、収益性が向上。



## 中間期決算を踏まえ、通期業績予想および配当予想を修正（上方修正・増配）

- 下期も生成AI関連製品の需要牽引は継続する見込み
- 上期に発生した、相互関税引き上げを見込んだ駆け込み需要の反動が懸念される
- メモリー製品の価格上昇は、下期後半にかけて小幅上昇から横ばい予想。当社の利幅も縮小の見通し。

(億円)	2026年3月期		対期初予想		(参考)	
	期初予想 (2025/4/26発表)	修正予想 (2025/10/30発表)	増減額	増減率	前年実績	増減額
売上高	4,000	4,700	700	17.5%	4,217	483
営業利益	88	115	27	30.7%	102	13
経常利益	65	90	25	38.5%	74	16
親会社に帰属する 当期純利益	48	64	16	33.3%	56	8
一株当り純利益 (円)	705.78	941.05	235.27	33.3%	821.69	119.35
配当金 (円)	260.00	300.00	40.00	15.4%	300.00	0

## TOPICS

### 注力分野である車載ビジネス強化

#### ■ 北米拠点の設立準備をスタート

北米における自動車のエレクトロニクス化・電動化は今後も進み、電動車（BEV、HEV）販売台数は2025年の160万台から2030年には410万台に達する見通し\*1。  
米国マーケットにて、車載ビジネスの強化と市場参入を目指す。



### 生成AIビジネスの取組み

- 生成AIの普及が急速に拡大し、AI サーバーおよびエッジ向けに最適化されたソリューションの需要が高まる中、以下2社の最先端 NPU製品\*2の取り扱いを開始。

#### 【Rebellions, Inc】

エンタープライズ級推論ワークロードを安定的に処理し、AI推論に最適化されたソリューションを提供

#### 【Mobilint, Inc.】

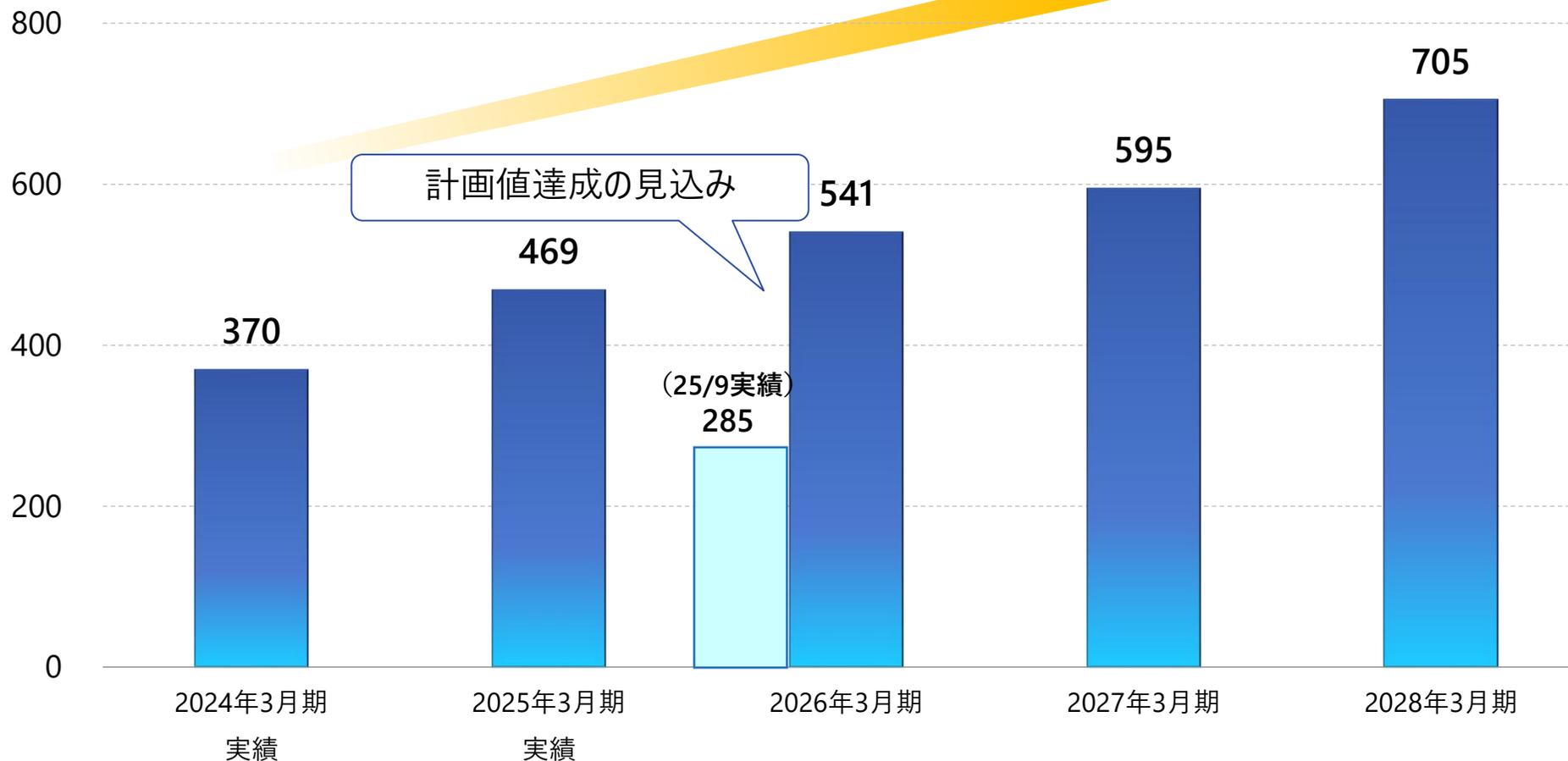
高価で電力を大量に消費するGPUに代わる、エッジサーバーやデバイス上のAIに最適なソリューションを提供

NPU製品を取り扱いを通じて、生成AI推論市場の新たなニーズを模索し、メモリビジネスとのシナジー創出します。

# 車載ビジネス売上計画

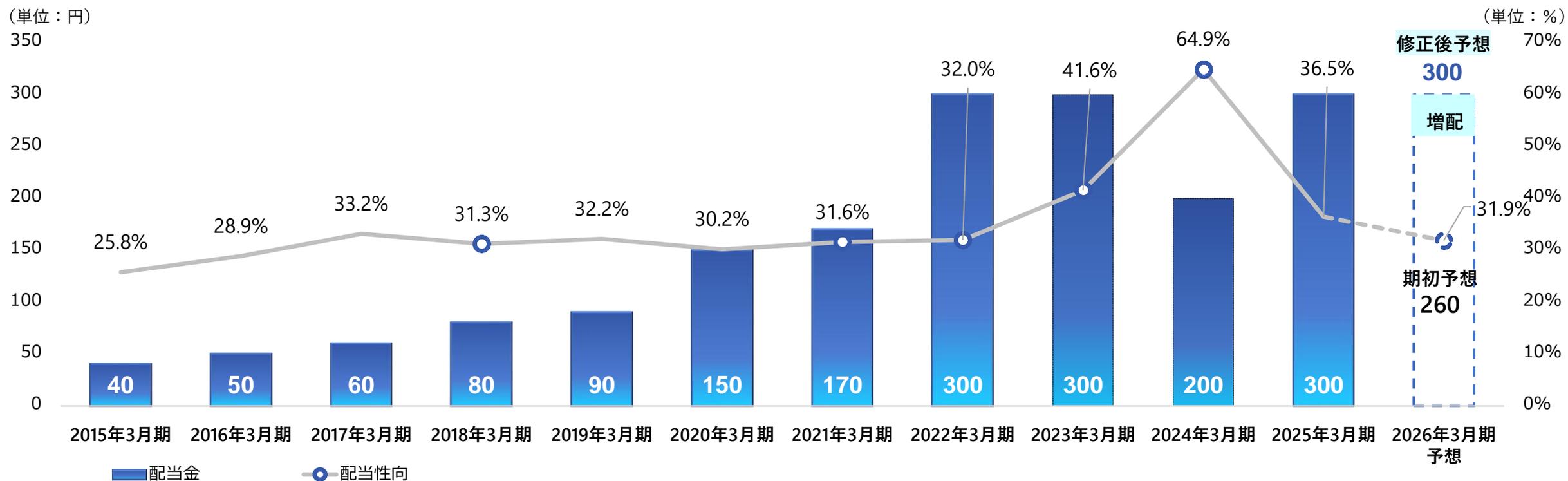
- メモリー以外の商材を拡充・拡販、市場開拓を継続
- 品質対応および海外サポートの体制強化

(単位：億円)



## 配当方針

- 連結業績に応じた業績連動型の配当
- 安定的な配当の継続を目指し、配当性向の引き上げを図っていく
- 経済環境の変化と資金需要等を勘案し柔軟に対処
- 内部留保は、激変する経済環境下における経営基盤の強化、事業拡大に伴う資金需要への充当および財務体質の強化に活用



I 2025年3月期 決算概況

II 2026年3月期業績見通し

III 中期経営計画進捗

IV Appendix（会社概要）

先端技術の提供とグローバルなパートナーシップを通じて、  
顧客・社会の現在（いま）と、ひとつ先の未来に貢献します

## MISSION

当社が  
社会に対して  
なすべき使命

## VISION

当社が目指す  
ありたい姿

## VALUE (行動指針)

当社の役職員が  
具体的に  
やるべきこと

### 価値を創造し続け、 常に選ばれるエレクトロニクス商社

- 多様なニーズや課題に応え、ステークホルダーから信頼される存在になる
- 取引先との強固なリレーションを軸にグローバルなサービス網を構築、展開する
- 環境に配慮したデバイスの提供を通じて持続可能な社会づくりへ貢献する
- 働きやすい環境の中で、個を高め、チームとして結束する

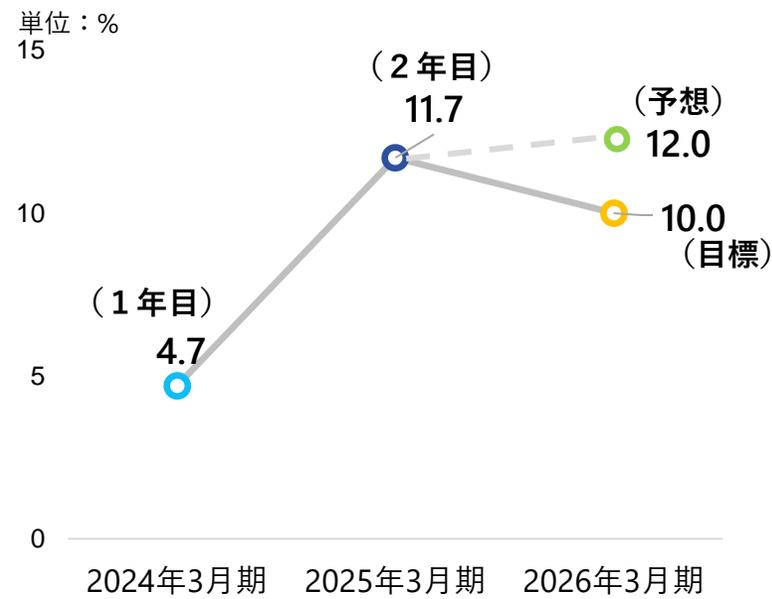
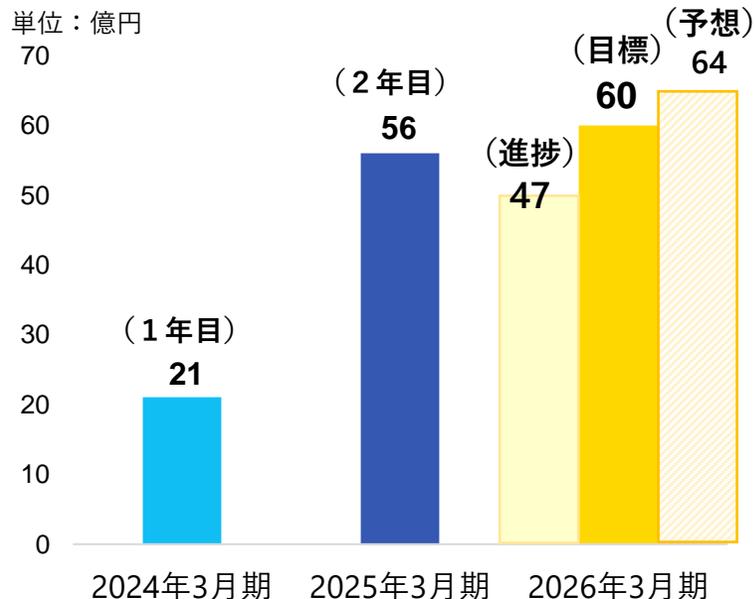
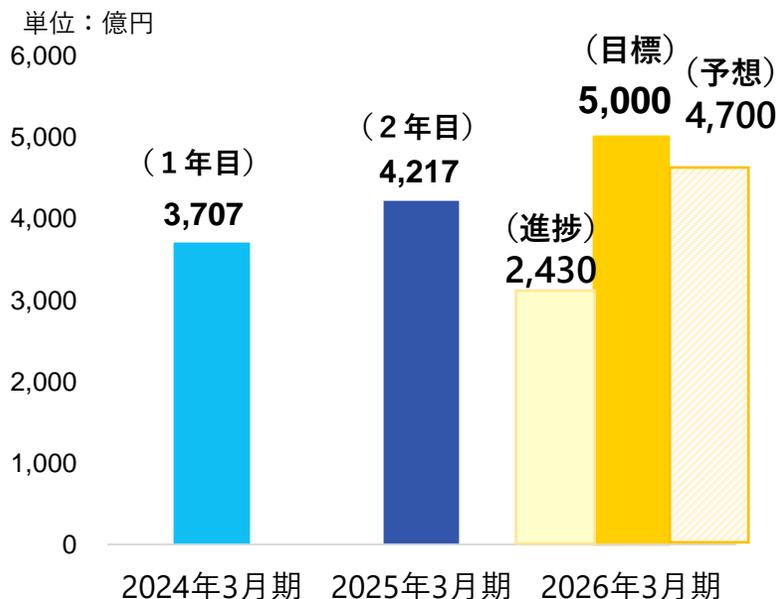
### わたしたちは

- **お互いを尊重します**  
個々を尊重し、グローバルで多様性のある組織をつくります
- **日々向上します**  
積極的に視野を広げ、初心を忘れず共に成長します
- **挑戦し続けます**  
好奇心と情熱をもって挑戦し、粘り強く最後までやり遂げます
- **信頼に応えます**  
多様なニーズや課題に真摯に対応し、ステークホルダーから必要とされる存在になります
- **コンプライアンスを徹底します**  
法令や社会規範を遵守し、誠実に業務を行います
- **次世代へ貢献します**  
一人ひとりが積極的に環境に配慮して行動し、持続可能な社会の発展に貢献します

そして、常に選ばれる企業を目指します。

# 中期経営計画 最終年度定量目標の進捗と見通し

- 2026年度3月期売上高は、目標をわずかに下回る予想。
- 但し、当期利益は目標達成となる見込み。

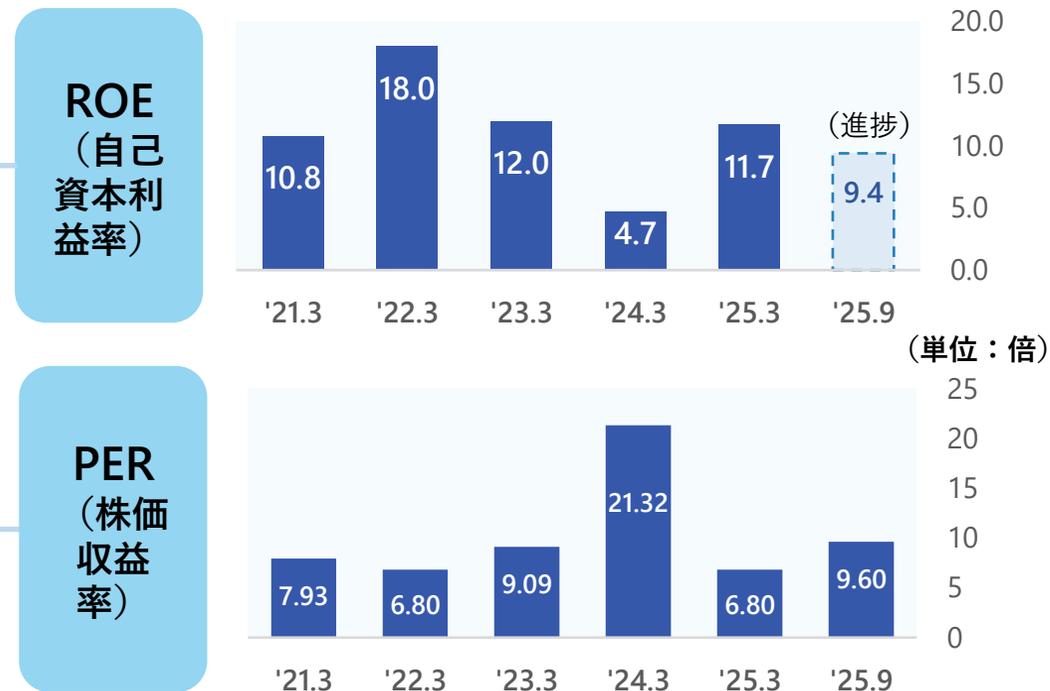
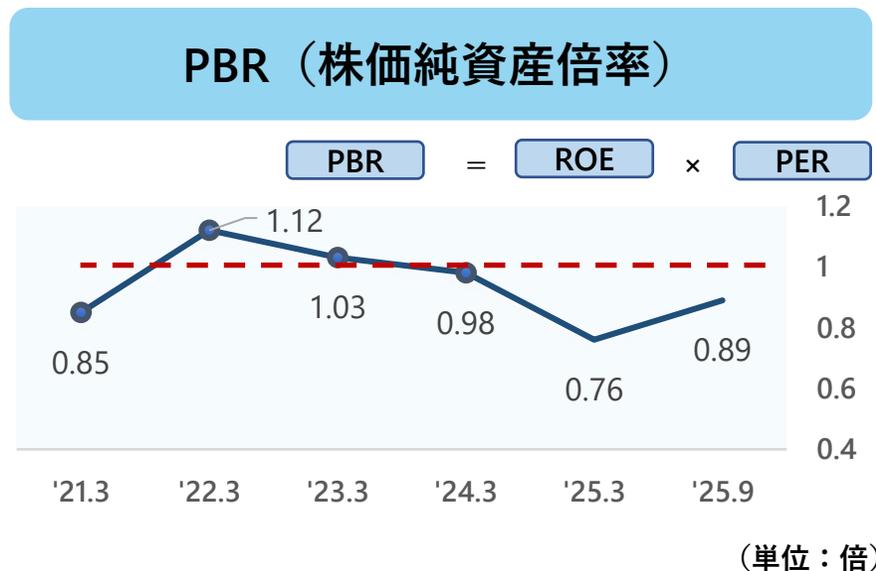


進捗：2026年3月期中間期実績

予想：2025年10月30日公表

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて（現状分析）

- 好調な業績を維持している一方で、現在のPBRは1倍を下回る状態が続いている
- ROEは比較的安定して高水準を維持しているが、PERが低く、株価は割安水準にとどまっている
- 当社の株主資本コストは概ね7～8%程度と見積もっているが、株主・投資家の皆さまとの対話を通じて、市場からの期待はそれ以上であると認識している



## ■ 資本コスト（CAPMを採用）

$$\begin{array}{c} \text{株主} \\ \text{資本コスト} \\ \text{(\%)} \end{array} = \begin{array}{c} \text{①リスクフリーレート (\%)} \\ \text{(無リスク金利)} \end{array} + \begin{array}{c} \text{②}\beta\text{値} \\ \text{(当社固有のリスク)} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{③リスクプレミアム (\%)} \\ \text{(株式投資に期待する超過収益率)} \end{array}$$

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた施策

## 企業価値向上・PBR改善に向けての目標とアクションプラン

- 中期経営計画最終年度 定量目標（売上高5,000億円、当期利益安定的に60億円、ROE安定的に10%）を達成する
- 人的資本投資を強化し、社員一人ひとりの成長を促進するとともに、企業全体の持続的な発展を目指す
- ステークホルダーとのコミュニケーションを強化するとともに株主還元の充実をはかる

### ROE 向上

#### 1. 事業戦略

- ① 企業価値向上に向けた成長戦略・戦略投資
- ② 収益力の向上・製品ポートフォリオの最適化
  - ・車載BizおよびOLED・CISなどのメモリー市況と連動しない製品のシェア拡大
  - ・新規Biz、新規案件の開拓
- ③ 中期経営計画の着実な実行（明確な目標設定、達成度のモニタリング）

#### 2. 財務戦略

- ① 資本効率性の向上
  - ・在庫管理（回転率向上と在庫コスト削減）
  - ・債権管理強化（回収期間短縮と不良債権削除）
- ② 安定配当の継続および株主還元施策検討

### PER 改善

#### 3. 非財務戦略

- ① サステナビリティ経営の深化（KPI設定、DX推進、CSR活動）
- ② 株主・投資家との積極的な対話（[統合報告書近日公開予定](#)、英文開示充実）
- ③ 人的資本投資（健康経営の推進、エンゲージメント向上）
- ④ 経営基盤強化（与信管理体制再構築、海外子会社監査、社内研修の充実）

企業価値  
の向上  
PBR>1

# 統合報告書発刊のお知らせ

当社グループとしては初となる統合報告書を発刊します。（日本語版、近日公開予定。英語版は後日の予定）

「価値を創造し続け、常に選ばれるエレクトロニクス商社」というビジョン実現に向け、これまで培ってきた強み・特色を活かして、今後どのように会社が成長していくのかを示すとともに、当社グループが社会に対し創出していく提供価値についてまとめました。是非、ご一読ください。

弊社ホームページ「新着情報」に近日中に掲載する予定です。 <https://www.tomendevices.co.jp/new.html>





2025年3月期 決算概況



2026年3月期業績見通し



中期経営計画進捗

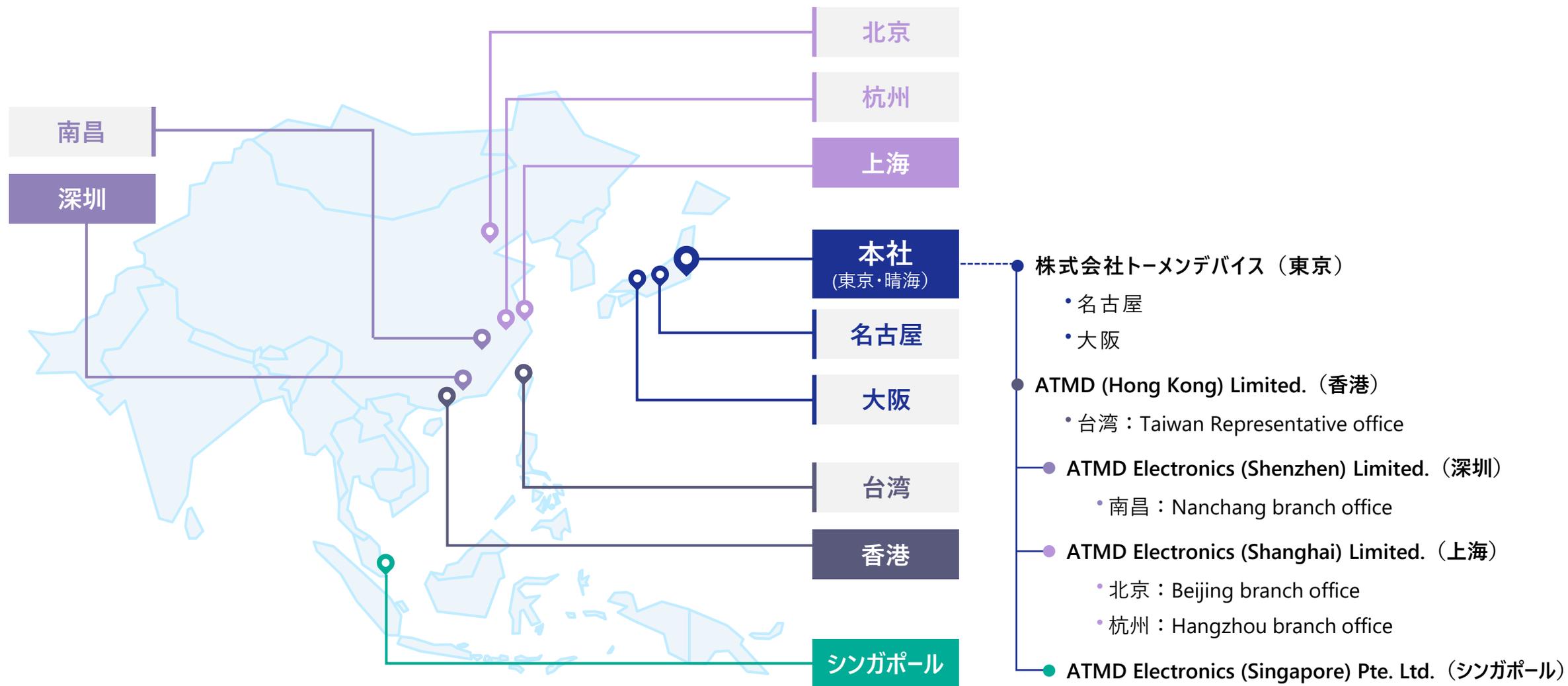


Appendix (会社概要)

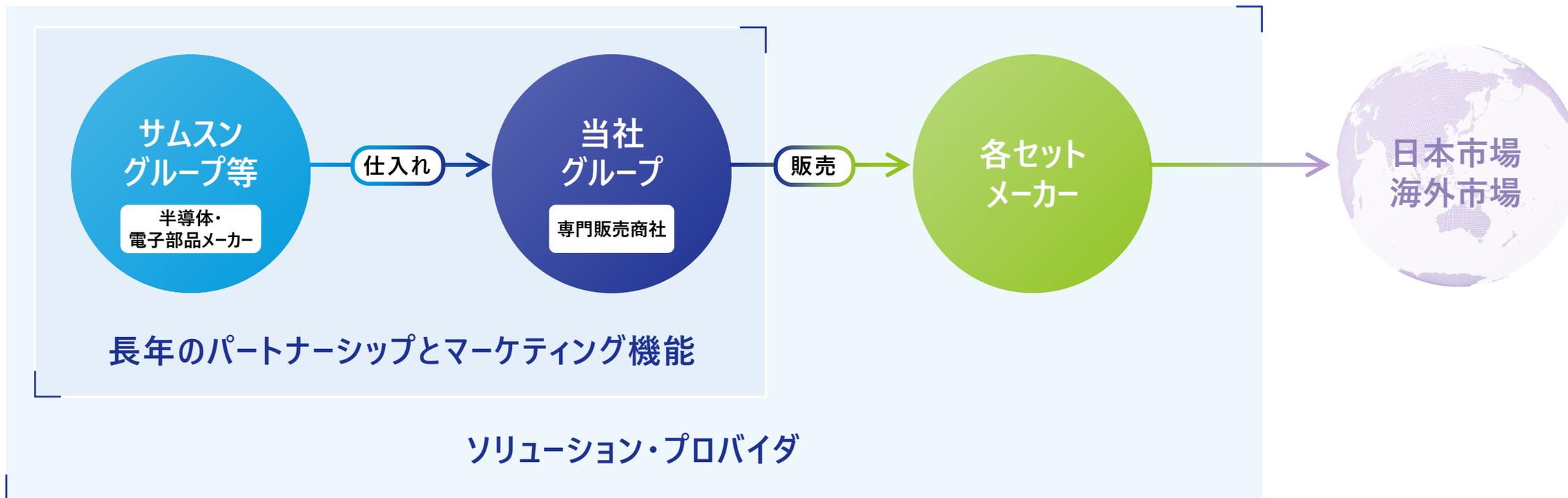
## FUTURE × GLOBAL

会社名	株式会社トームンデバイス（TOMEN DEVICES CORPORATION）
設立	1992年3月19日（平成4年）
所在地	東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア オフィスタワー Z 棟 30階
代表者名	代表取締役社長 中尾 清隆
資本金	20億5,400万円
従業員数	203名（連結） 2025年9月30日現在
ホームページ	<a href="https://www.tomendevices.co.jp/">https://www.tomendevices.co.jp/</a>
事業内容	半導体や電子部品の販売
上場市場	東京証券取引所プライム市場（証券コード：2737）

# 当社のネットワーク（海外子会社）



トーメンデバイスグループは世界のサムスングループの半導体製品、電子部品を主に販売するエレクトロニクス商社です。



**最先端かつ低消費電力の半導体・電子部品**の供給を通じて、  
低炭素社会の実現に努めます。

## Features1.

日本国内における  
サムスングループ唯一の代理店

2018年10月、丸文セミコン株式会社が営む、日本サムスン株式会社の販売特約店事業を譲り受けたことにより、国内唯一の代理店となった

## Features2.

サムスンの最先端の半導体・電子売品を、  
お客様の新製品開発段階から提案可能

仕入先とお客様の間にとって、製品の設計、開発、施策にいたる一貫したサービス機能を提供する「ソリューション・プロバイダ」としての役割を強化

## Features3.

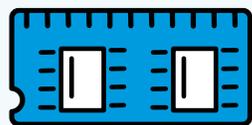
一人当たりの売上高・経常利益は、  
半導体商社の中でトップクラスを確保

2025年3月期実績（連結）

・ 一人当たり売上高	2,140百万円
・ 一人当たり経常利益	37百万円

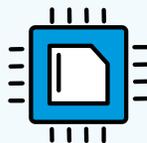
当社グループは、サムスングループ製半導体及び電子部品をパソコン、デジタル家電、携帯電話や情報・通信機器などのメーカーに販売する技術系販売商社です。

## 半導体メモリー



- DRAM
- NAND
- SSD
- MCP

## システムLSI



- ディスプレイドライバーIC
- CMOSイメージセンサー
- AP

## ディスプレイ



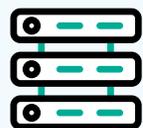
- 有機EL

## その他



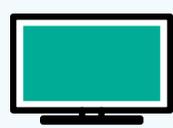
- バッテリー（サムスンSDI）
- MLCC（サムスン電機）

## 用途例



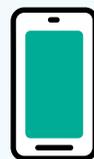
### 情報機器

- PC
- サーバー・ストレージ



### デジタル家電

- TV
- デジタルカメラ



### 移動体通信

- スマートフォン
- 携帯電話



### その他

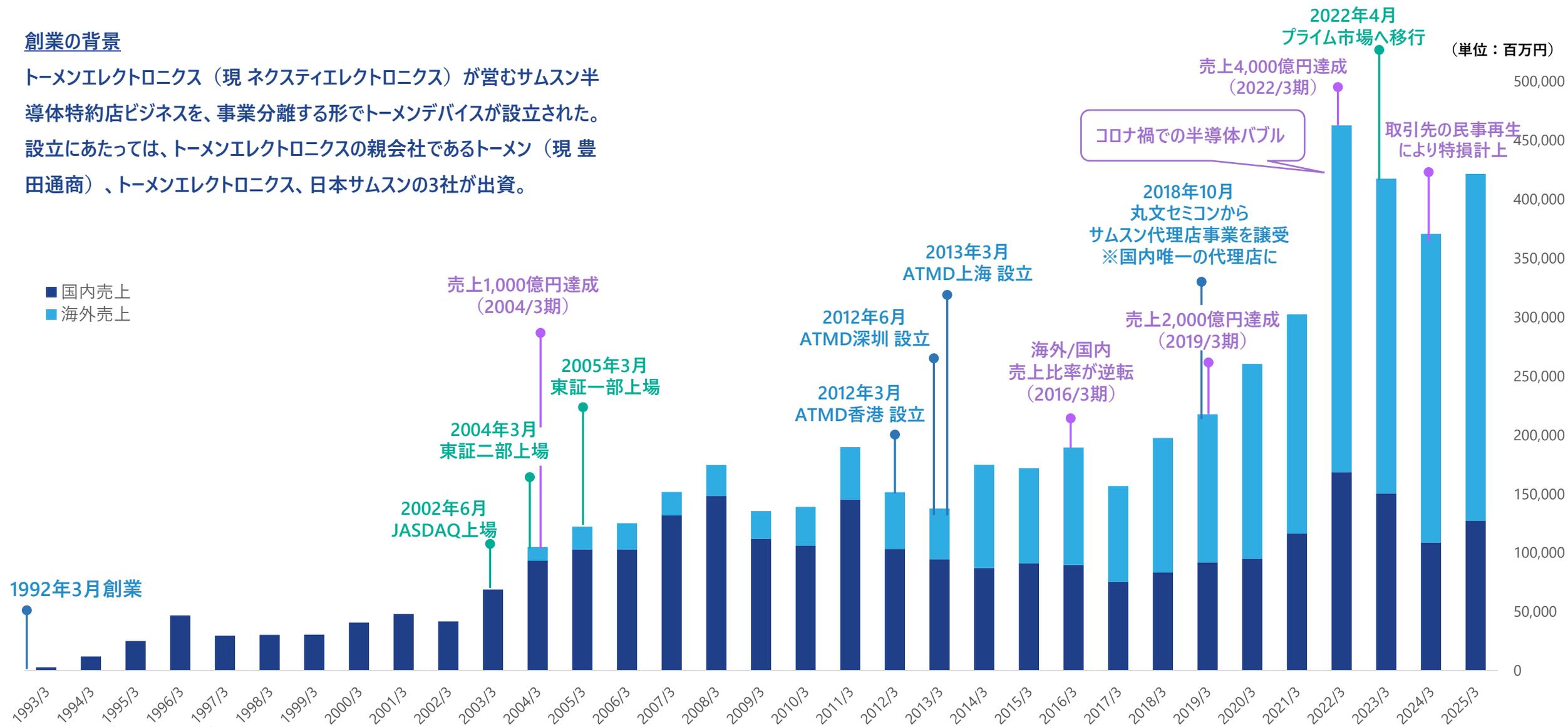
- 車載
- MFP

# 当社の歩み

## 創業の背景

トーメンエレクトロニクス（現 ネクスティエレクトロニクス）が営むサムスン半導体特約店ビジネスを、事業分離する形でトーメンデバイスが設立された。設立にあたっては、トーメンエレクトロニクスの親会社であるトーメン（現 豊田通商）、トーメンエレクトロニクス、日本サムスンの3社が出資。

■ 国内売上  
■ 海外売上



本資料に掲載されている株式会社トーメンデバイスの業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確定の要因によっては、大きく変化する可能性があります。従って、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。また、本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。